



きずな

K I Z U N A



ネット社会と人権

ネット社会を安心して生きる



② グラフで見るインターネットを悪用した人権侵害

③ 「いま求められるネット・リテラシー教育」

渡辺真由子さん(メディアジャーナリスト 慶應義塾大学SFC研究所上席所員(訪問))

④ 「多発するインターネット炎上トラブル」

安川雅史さん(全国Webカウンセリング協議会 理事長)

⑤ 「子どもたちとネット上の個人情報」

竹内和雄さん(兵庫県立大学環境人間学部 准教授)

⑥ 「発達障害の子どもたちが抱える困難さに対する、ICT(情報通信技術)の可能性」

小川修史さん(兵庫教育大学大学院学校教育研究科講師)

⑦ 「知識をもって思いやりの輪をひろげよう」

森 理世さん(ミスユニバース2007・モデル・ダンサー)

⑧ 情報ぷらざ



兵庫県マスコット
はばたん

※いま求められる ネット・リテラシー教育

メディアジャーナリスト
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員(訪問)

わたなべまゆこ
渡辺真由子さん

気軽な書き込みがトラブルに

「お前なんか調子にのるな」「ぶざけんな」「ウザい」……。こんなコメントが、中学3年生のA子の自己紹介サイトに、大量に寄せられました。そのサイトでA子が某男性アイドルの名前を挙げ、「〇〇くん大好き!」街でドラマの撮影をしているのを見かけちゃった」等と書き込んだことがきっかけでした。妬みを感じたファン達が誹謗中傷をしてきたのです。

嫌がらせはこれで終わりません。A子はサイトで本名と顔写真を公開していたため、ネットの巨大掲示板にそれらが勝手に転載されました。「こいつをボコボコにしてやる」等と、脅迫めいた書き込みも行われるように。「怖くてしばらく外を歩けなかった」とA子は振り返ります。

ネット・トラブルの背景

ネットでトラブルが起きやすい背景には、3つの主な特性があります。第一に「非対面性」。ネット上では目の前に相手がおらず、真意を測りかねます。冒頭の例では、A子の無邪気な書き込みが「白慢」と誤解された可能性があります。また、誹謗中傷を書く側は冗談のつもりでも、相手を本気で怯えさせてしまいます。

第二に「匿名性」。ネットへの書き込みは表向きには匿名で行えるので、子どもは誹謗中傷の文言をエスカレートさせがちです。しかし実際には、適切な手段をとれば発信者は特定可能なのです。

第三に「拡散性」。ネット上の文字や画像はコピーが可能なため、無数のサイトに転載されかねません。A子も名前や顔写真を悪用されました。悪用した側が反省して削除しようとしても転載に追い付けず、手遅れになるケースもあります。

家庭で教えたいネット・リテラシー

子どものネット利用が当たり前となるいま、トラブル対策としてネットから遮断するのは現実的ではありません。ネットが持つ特性を理解した上で賢く活用する能力、すなわち「ネット・リテラシー」を育むことが重要です。先にあげたネットの特性を子どもに教え、「画面の向こうの相手を思いやる」「ネットでも身元はバレる」「拡散されれば手遅れ」といった点を強調しましょう。

子どもはネット・トラブルに巻き込まれても、なかなか親に打ち明けません。ネット利用が禁止されるのを恐れるからです。「トラブル

が起きても即ネット利用を禁止するわけではなく、一緒に解決策を考えよう」と、親はあらかじめ我が子に伝えておきましょう。トラブルの芽をつむむためにも、まずは家庭の中に相談しやすい雰囲気を作りたいですね。

※ネットが持つ特性を理解して賢く活用する能力のこと

プロフィール

慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得。元テレビ局報道記者。いじめ自殺を追及したドキュメンタリー『少年調書』で日本民間放送連盟賞最優秀賞。平成23年度文部科学省ケータイモラルキャラバン隊講師、平成26年度法務省人権啓発指導者養成研修会講師。著書に『大人が知らないネットいじめの真実』、『オトナのメディア・リテラシー』ほか多数。



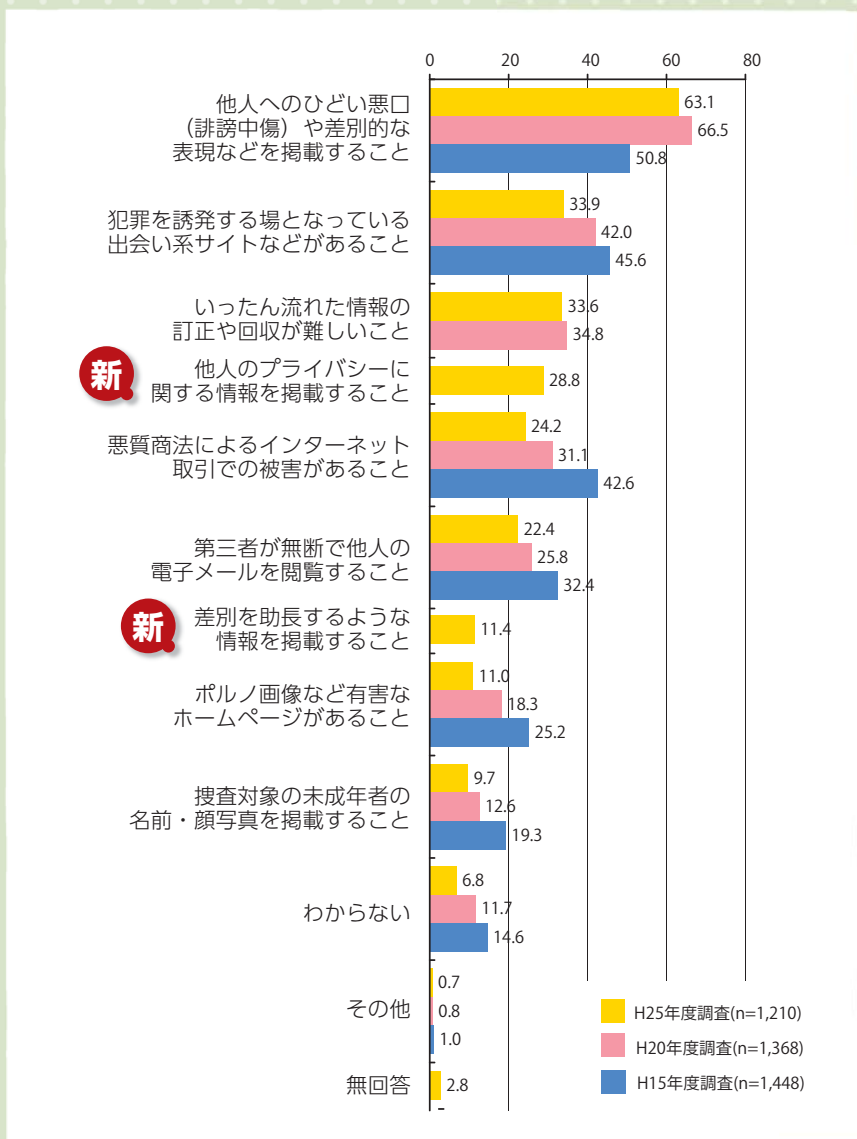
平成25年度 人権に関する県民意識調査の結果より

インターネット（パソコン、スマートフォンなど）を悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇は3つまで）



悪用した人権侵害 グラフで見るインターネットを

日常生活の中で、インターネットは欠かせないものになっています。しかし、使い方を誤れば他人ばかりか自分を傷つける道具となります。また、ネット上での個人情報流出など、社会的な問題も発生しています。本号では、インターネット社会の現状について理解を深め、インターネットをより安心・安全に使うためにはどのようなことすればよいか考えてみましょう。



※ **新** は平成25年度調査で新たに設けた設問

兵庫県が昨年度実施した県民意識調査の結果で、人権課題のうち、最も県民の皆さんの関心が高いものは「インターネットを悪用した人権侵害」に関するものでした。インターネットを悪用した人権上の問題をみると、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」が63.1%で最も高くなっています。以下、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が33.9%、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が33.6%、「他人のプライバシーに関する情報を掲載すること」が28.8%と続いています。

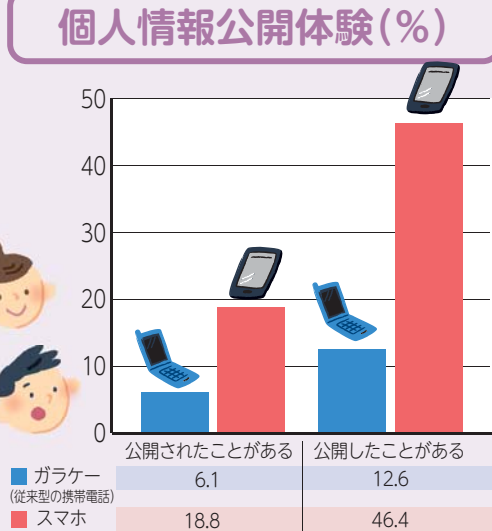


子どもたちと ネット上の個人情報

兵庫県立大学
環境人間学部准教授

竹内 和雄 さん
たけうち かずお

マスコミでは、連日、スマートフォン(以下スマホ)依存、炎上問題などが大きく報じられ、子どもたちとインターネットの問題は社会問題になっていきます。中でも、子どもたちの個人情報流出の問題は、大きな課題です。



右の図は、私の研究室の調査結果で、2013年12月に兵庫県の中高一358人に、個人情報公開体験を問うたアンケート結果です。スマホ所持者の18.8%が個人情報を公開されたことがあり、46.4%が公開したことがあると答えています。本稿執筆のために、スマホを所持している高校生5人にどうという機会

に個人情報を公開されたり、公開したりするか聞いてみました。

「名前とか住所くらいだったらみんな書いてるから自分も書いてる」「写真なんかも、みんな載せてる」「好きなミュージシャンのライブに行くとき、写真とか交換して会う」

怖くないか聞くと、「少しずつ情報を出していくから大丈夫」と自分には危険がないと確信しています。東京や熊本で実際にあった女子高校生殺人事件等を紹介しましたが、「私の場合は大丈夫」と、全く悪びれた様子はありません。

次に、スマホ所持者の公開の比率は、ガラケー(従来型の携帯電話)所持者の3倍以上あることの理由も想像してもらいました。

「スマホはネットに簡単につながるから、やりとりが簡単」「すぐ親しくなって交換する」「みんなで情報出し合って仲良くなる」「アプリとか登録するとき、個人情報を書くので慣れっこになってるかな」

中学生のスマホ化は著しいです。内閣府の2014年2月の調査では、スマホ所持率は中学生36.3%、高校生82.4%でしたが、2014年夏以降の私の調査では、ほとんどの場合、中学生で5割以上、高校生では9割以上がスマホを保持しています。つまり、個人情報の流出の危険性は、今後ますます増えていくこ

とが予想できません。

状況はもはや待ったなしです。我々大人の認識を超えたところに子どもたちはいます。まずは大人がこの状況をしっかりと把握した上で対策を講じていかないと、私たちの社会はたいへんなことになってしまいます。「知らない」「わからない」では済まされません。

今年度と来年度、2年かけて、神戸市の全167小学校で、私のゼミ生等が、スマホの危険等についての授業を行います。すでに30校ほど終わっていますが、小学生の知識も関心も非常に高く、こういう取り組みを全国各地で行っていく必要を痛感しています。当事者になって個人情報を公開したり、されたりする前の教育が必要です。

プロフィール



ウィーン大学客員研究員。いじめ、不登校、ネット問題などで「困っている子ども」への対応方法など生徒指導が専門。公立中学で20年間、生徒指導主事などを担当。寝屋川市教育委員会指導主事を経て、2012(平成24)年より現職。ネットやスマホに関する文部科学省や総務省の委員を務める。「スマホ子ども対応マニュアル」(中公新書ラクレ)、「スマホやネットが苦手でも指導で迷わない! スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談」(ほんの森出版)など著書多数。

多発するインターネット 炎上トラブル

全国Webカウンセリング協議会
理事長

やすかわ まちし
安川 雅史 さん

インターネット上の炎上トラブル

些細な画像の投稿や書き込みがきっかけで、インターネットサイトは炎上します。炎上とは特定の事柄に対して批判や誹謗中傷が殺到することを指します。炎上トラブルを取りまとめめるような『まとめサイト』に掲載されると多くのネットユーザにより情報が拡散するため、インターネット上からすべての情報を削除するのは不可能に等しいです。最悪のケースでは、あらゆる手段を使い個人情報調べられ、勤務先や学校が特定され、退職や退学に追い込まれた社会人や学生もいるのです。

炎上してしまったら

ブログが炎上した場合は、きつかけとなった書き込みの文章を修正して、誠意ある謝罪文を載せてください。掲示板やコメント欄を一時的に閉鎖することも一つの方法ですが、非難するコメントの削除や内容修正をすると、ネットユーザからの反感を買い、さらに炎上します。サイトの閉鎖や特定の

書き込みを削除しても、内容を保存する機能を持つサイトや内容を保存して様々なサイトに拡散する人が必ず現れます。自ら感情的な反論をしたり、挑発したりすると炎上は収束しません。

トラブルから身を守るために

- 他人を差別したり、批判したりすることを書かない。
 - モラルに反する画像や犯罪・違法行為にあたる画像をアップしない。
 - 他人のプライバシーに関わる画像や他人のプライバシーについてアップしない。
 - 内部情報に関わることは書かない。名前、住所、性別、個人情報などは書かない。
- 少なくとも以上のことに注意する事が必要です。

複数の* SNSサイトを利用して人は、それぞれのサイトから個人情報が集約されてしまう可能性があります。ネット上で知り合った人に、氏名・住所・学校名・勤務先・家族構成・恋人・結婚相手の情報まで特定され、

ストーリー被害を受けた人もいます。

スマートフォンにはGPS機能が内蔵されており、画像やインターネット上の書き込みへ位置情報を付け加えることができます。便利な機能ではありますが、画像の撮影場所や現在位置が特定される可能性があるため、この機能は無効化しておく方が良いです。

誰もが閲覧できるインターネットは、掲載内容・掲載画像に責任を負わなければならぬことを忘れてはいけません。

※ソーシャルネットワークサービス（ネット上で人と人とのつながりをサポートするもの）

プロフィール

全国webカウンセリング協議会 理事長としてネットいじめ・いじめ・不登校・ひきこもり・少年犯罪問題に本格的に取り組む。全国各地より依頼を受け、講演会や研修会を行う。(過去8年間実績: 全国2,000会場以上) 第一学院高等学校 統括カウンセラー、上野学園セキュリティアドバイザー等も兼ねる。



ひょうごっ子「ネットいじめ情報」相談窓口

兵庫県教育委員会

パソコンや携帯電話を使ったインターネット上の誹謗中傷や嫌がらせなどのトラブル等について、兵庫県下の児童生徒・保護者及び学校から相談をお受けしています。ネット上のいじめ・誹謗中傷を解決するためアドバイスさせていただいています。一人で悩まずにご相談ください。

☐電話相談

06-4868-3395

開設時間

月～土 14:00～19:00
(祝日、12/28～1/3を除く)

☐FAX相談

06-4868-3396

☐電子メールで相談

soudan@hyogokko.npos.biz



☐webサイトからの相談

http://hyogokko.npos.biz



知識をもつて思いやりの輪をひろげよう

正しい情報が正しい知識となる

ミスユニバーズは約1年間という限られた期間の中でAIDS／HIVのスポークスマンとして世界中を駆け巡ります。

優勝者は多くのチャリティー活動を行います。その中でAIDS／HIVというカテゴリーを任されるには理由があります。

ミスユニバーズは18〜27歳までの応募資格があります。つまり同世代の若者達に同じ目線でこの病気について、正しい知識と感染者の人権を守る事を伝える重要な目的がある任務でした。

私は学生の頃、日本の学校ではAIDS／HIVについて詳しく習いませんでした。世界で広がりを防ぐべき病であるにもかかわらず、教

科書にはほんの一部載っている程度でした。

恥ずかしい話ではありますが、AIDSとHIVの違いも知らぬままミスユニバーズになりました。

就任後に一から専門家のドクターに病気について学び、数々の施設をまわり感染者の方々と話す事で病気について理解を深めていきました。

知れば知るほど、病気について間違った認識が広がっている事が分かりました。

空気感染するのではないかと、触っただけで感染するのではないかと、蚊に刺されて感染するのではないかと。人は知識が無いゆえに、むやみに差別をしてしまう傾向があります。

どのように感染するかも知らない方が多いため、私はスポークスマンとして15力国で中学生から同世代までに正しい知識を広める為にスピーチを繰り返し返してきました。感情に左右されず、知識をもって防いでほしいと思います。また、子どもたちにきちんと教えることができるよう、目をそらさずに大人たちが知識を持ち、理解することが重要だと思います。

世界に広げる知識の輪

現在では研究者のおかげで、医療

プロフィール



1986(昭和61)年4月4日生まれ。静岡県静岡市出身。母の元でダンスを始め、2007(平成19)年、メキシコ・シウタで開催されたミスユニバーズ世界大会で優勝。チャリティー活動やボランティアを展開し、世界15カ国を巡回。現在は、モデルやチャリティー活動「R.M.アカデミー」を設立し活動している。

ミスユニバーズ世界大会で優勝。チャリティー活動やボランティアを展開し、世界15カ国を巡回。現在は、モデルやチャリティー活動「R.M.アカデミー」を設立し活動している。

や薬も進歩しています。しかしそれもあまり知られていないため、誰にも相談できずに悩んでいる方々も多いと伺いました。

多くの国で直接HIV感染者の方から正しい情報を伝える事と差別のない環境を作ってください。と言われた事を忘れません。

人権は世界中の誰もが平等に持つべきものであり、誰かによって脅かされるものではありません。AIDS／HIVは難病ではありませんが、病気について理解を深め、正しい知識を10代のうちから教育すべきだと、私は考えます。

正しい知識こそが誤解や偏見を未然に防ぐ一番の方法だと思っています。

映画紹介

マルタのことづけ

(2013年、メキシコ)

入退院を繰り返し、死期を意識しているマルタには子どもが4人います。母親代わりの長女、過食症気味の次女、おしゃべりに余念のない三女、そしてまだ小さい洗濯係の長男。マルタはたまたま隣のベッドに入院してきたクラウディアを自宅に招きます。

スーパーでの販売員の仕事をしているクラウディアは、両親のことも知らずに育ち、孤独そのものの暮らしをしていましたが、マルタたちとの日常を重ねていく中で、クラウディアにも子どもたちにも変化が起きていきます。何となくよそよそしい関係に見えていたのが、人は一人生きていくのではない、とみんなが気づいて絆を結んでいくのです。いたって自然に。そこに至るまでに、劇的な事件も決めセリフもありません。映画は普段の普通の日常を積み重ねていきます。恐れを抱きながらも死を受け入れているマルタの人生観、慧眼が際立っている、ということになります。深刻な設定ですが、ユーモラスなシーンもあり、不思議な雰囲気の内温まる作品です。

11月29日(予定)からシネリーブル神戸で公開されます。



監督:クラウディア・サント＝リユス
出演:ヒメナ・アヤラ 91分

問い合わせ:シネリーブル神戸
☎078(334)2126

※物事の本質を見抜くすぐれた眼力



きずなトピック

ミスユニバーズ2007
モデル・ダンサー

もり森 理世さん

発達障害の子どもたちが抱える困難さに対する、ICT(情報通信技術)の可能性

兵庫教育大学大学院
学校教育研究科講師

小川 修史 さん



「発達障害とは？」

皆さんは「発達障害」をご存知ですか？発達障害と聞くと、つい「出来ないことが多い」と思われがちですが、実はそうではありません。出来ることも多くあります。ただ、得意なことと苦手なことの差が大きいのです。

例えば、皆さんのうち国語が苦手だった方も、テストで点は取れなくても、本を読むことは出来るでしょう。しかし、発達障害の子どもたちの中には、友達と普通に会話は出来るのに、本を読むときに文字が歪んで見えてしまう、注意の持続が困難で、言われたことをすぐに忘れてしまう、見通しが立たない状況に陥ると混乱してしまうなど、様々な困難を伴う人がいます。これらの困難さは、脳機能に起因しているため、視覚障害の方の視力を回復させることが難しいのと同じく、努力だけでは改善できません。ただし、このような困難さがある一方で、例えば、ユニークさを活かしてムーブメーカーになったり、几帳面さを活かして細かい作業に集中出来たりと、出来ることも多く、むしろ健康者より能力がある場合もあります。つまり、子

どもたちを支援することで困難さを軽減すると共に、出来ることを増やすことが求められています。

「ICT(情報通信技術)の可能性」

近年、子どもたちの困難さを軽減し、出来ることを増やす方法の一つとして、ICT(情報通信技術)が注目されています。例えば、文字が歪んで見えてしまう場合、タブレット端末の「文章読み上げ機能」を使えば、文章を読めなくても理解することが出来ます。黒板の文字を書き写すことが難しかったとしても、デジタルカメラで撮影すれば、自習することが出来ます。言われたことをすぐに忘れてしまう場合、ボイスレコーダーを使うことで、後で確認することが出来ます。

このように困難さを解消することで、子どもたちの得意なことがより充実する可能性もあります。例えば、理科には興味があるのに、教科書や資料集を読めずにつまずいていた場合、「本を読む困難さ」をICTで回避することで、興味だけでなく学力が伴い、自信を深め、それ

が主体的な活動に結びつくことも考えられます。

教育の場でICTを使うことについては賛否両論あります。しかし、少なくとも発達障害の子どもたちにとっては、ICTは困難さを解消し、自信をつけさせてくれる手段の一つといえます。黒板の字が読みにくいという困難さを解決するという意味で、メガネによく例えられます。もちろん学校でICTを使うためにはルールづくりも必要ですが、メガネと同様、困難さを解消し、自信を深めるための道具として、広く認知されることを願っています。

2014(平成26)年の3月に文部科学省より「発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック―特別支援学校編―」が刊行されました。学校での活用事例も多く掲載されていますので、是非ご覧下さい。

プロフィール

2003(平成15)年、和歌山大学システム工学部卒。2008(平成20)年、同大学大学院博士後期課程修了。工学博士。同年より、兵庫教育大学大学院学校教育研究科助教。翌年から同講師。発達障害のある子どもたちに対するICT活用の可能性について研究している。文中のハンドブックの研究代表者。



みんなで人権を考えよう

情報ぷらざ

「人権のつどい」を開催

日時 12月1日(月) 13:30~16:20

場所 兵庫県公館 大会議室

神戸市中央区下山手通4-4-1
(神戸市営地下鉄「県庁前」駅西5番出口すぐ)

定員 500人
参加費 無料

内容 ○「のじぎく文芸賞」表彰式

○パネルディスカッション「震災と人権」

パネリスト

林 芳樹さん(神戸新聞特別編集委員兼論説顧問)

森 祐理さん(歌手)

八木俊介さん(あしなが育英会・神戸レインボーハウスチーフディレクター)

コーディネーター

藪本雅子さん(元日本テレビアナウンサー・記者)

○ハートフル人権コンサート「陽気にゆこう どんな時でも」

高石ともやさん(フォークシンガー)



12月10日~16日は

**北朝鮮人権侵害
問題啓発週間**です

日本政府は、拉致被害者に関する捜査・調査及び情報収集活動を進めており、今後の動向が注目されます。

政府認定拉致被害者17人のうち、兵庫県関係者では有本恵子さん、田中実さんのお二人が認定を受けています。

拉致問題は一刻も早く解決しなければならない人権侵害問題です。この機会に、拉致問題についての関心と認識を深めましょう。



詳しくは

(10月15日編集)

申し込み方法

はがき、ファクス、メールで受付、郵便番号、住所、名前、年齢、電話番号「つどい参加希望」を明記の上、下記までご連絡ください。(先着順、入場できない場合のみ11月26日(水)までに連絡します。)

【締切】 11月25日(火) (必着)

【送付先】 〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号
県立のじぎく会館内 (公財)兵庫県人権啓発協会 研修部
FAX 078(242)5360 MAIL info@hyogo-jinken.or.jp

イベントガイド

| | | |
|--|---|---|
| <p>芦屋市 日々の生活と人権を 考える集い2014</p> | <p>日時 11月19日(水) 14:30~16:30 場所 ルナ・ホール JR「芦屋」駅・阪急「芦屋川」駅から徒歩約10分 コンサート テーマ「震災と人権・悲しみから希望へ〜弟の命を通して〜」 ● 講師 森 祐理さん(歌手) ※入場無料、手話通訳・要約筆記あり・託児あり(6ヵ月以上)11月6日(木)までに申込み</p> | <p>問い合わせ 芦屋市市民生活部 人権推進課 TEL 0797-38-2055</p> |
| <p>小野市 心あったかフォーラム</p> | <p>日時 11月22日(土) 13:00~16:30 場所 小野市うるおい交流館エクラ 神戸電鉄「小野」駅かららんらんバス「エクラ」下車すぐ ①「心あったか人権ポスター・心あったか三行詩」の表彰 ②講演会「自分らしく生きる〜風通しのいい関係を〜」 ● 講師 伊藤公雄さん(京都大学大学院文学研究科教授) ③「全国中学生人権作文コンテスト(北播磨地区大会)」の表彰 ④市内中学生による人権作文の朗読 ※無料、申込み不要</p> | <p>問い合わせ 小野市市民安全部 ヒューマンライフ グループ TEL 0794-63-1243</p> |
| <p>西播磨人権のつどい 兼人権まちづくりフェスタ さよう2014</p> | <p>日時 11月29日(土) 13:30~15:50 場所 さよう文化情報センター 姫新線「佐用」駅から徒歩約3分 一部:人権作品表彰ほか 二部:記念公演「たにけん人権コンサート」 ● 出演 谷本賢一郎さん(歌手) ※無料、要申込み、手話通訳・要約筆記あり</p> | <p>問い合わせ 佐用町生涯学習課 TEL 0790-82-3336</p> |

インターネットで「人権文化をすすめる県民運動」の様子を配信中!



私が利用しているSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)には、利用者の中から知り合いであろう人を自動で知らせてくれる機能があります。おかげで、二十数年間、音信不通であった友人と再び連絡を取り合うようになりました。

これはうれしいことですが、わずかな個人情報をもとに知り合いの知り合いをたどって、友人を探しあてる検索能力のすごさに怖さも感じました。

提供する情報は自分で選び、設定を変更するなどして、情報の流出を防ぐことができますが、その特性をよく知ってから利用しないといけませんね。

(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp